

高知大学人文学部国際社会コミュニケーション学科  
高知大学人文社会科学部人文社会科学国際社会コース

主要刊行物一覧

高知大学人文学部国際社会コミュニケーション学科

『高知における国際交流——過去・現在・未来——シンポジウム報告集』

高知大学人文学部国際社会コミュニケーション学科、2000年

発刊にあたって	天羽 康夫
I シンポジウム	
開会の挨拶	天羽 康夫
基調講演	
土佐からハワイへ——奥村多喜衛の軌跡——	中川 美佐
シンポジウム・パネラー報告	
高知市における国際交流の取り組みの立場から	ドレイ・アルフェロ
高知県の海外移住史の立場から	岩佐 和幸
高知大学における国際交流の立場から	山本 恭子
学科の特色としての国際交流の立場から	丸井 一郎
学部将来構想としての国際交流の立場から	渡邊 輝道
閉会の挨拶	奥村 訓代
II シンポジウム関係資料	
新聞報道	
アンケート集計結果	
III 統計資料編	

高知における国際化研究プロジェクト

『高知における国際化〈ヒト・モノ・情報〉』

高知大学人文学部国際社会コミュニケーション学科、2003年

刊行にあたって	天羽 康夫
土佐と西洋	天羽 康夫
近代日本の対外意識と移民政策	田村 安興
高知における初期基督教伝道の展開	
——基督教伝道と自由民権運動家——	中川 美佐
佐川における英学と牧野富太郎	村端 五郎

## 青山文庫について

——森下雨村と西谷退三 県内の森下雨村関係文献及び青山文庫所蔵  
推理小説関係文献——

小澤 萬記

## 高知県における中南米移民送別の背景と実態

——戦後移住者を中心に——

岩佐 和幸

## 高知県企業の国際化

大石 達良

## 「地方都市」の「洋食」

丸井 一郎

## 洋風飲食の普及

村上 学

## 高知における留学交流

——交流に関するアンケート調査の実施報告——

山本 恭子

## 高知の国際化：留学生教育から見えるもの

奥村 訓代

## 村端五郎・小澤萬記編

『西谷文庫目録——高知県佐川町立青山文庫——(冊子体& CD-ROM ver.2)』  
高知大学人文学部、2006年

発刊に寄せて

松岡 司 (佐川町立青山文庫館長)

序 (西谷文庫略史及び概要／西谷文庫の貴重図書)

小澤 萬記

凡例

目次

和漢書の部

洋書の部

## 高知大学松尾國彦基金図書刊行会編

『越境する人と文化——人文・社会科学をはじめる人のための参考書——』  
リーブル出版、2007年

まえがき

小澤 萬記

はじめに

天羽 康夫

## 第I部 準備体操をはじめよう

第1章 Appleは林檎(リンゴ)にあらず!

——牧野富太郎と英和辞書の訳語から  
意外な東西文化交流史の一端が見える——

村端 五郎

第2章 テーマを探そう

小澤 萬記

第3章 フィールドワークをやってみよう

岩佐 和幸

第4章 「漢字」をめぐる

中森 健二

第5章 日本語の文がどのように理解されているのか調べてみよう

中野 陽子

## 第II部 地域に出てみよう

第6章 生活の情報化を考える

——「はちきんねっと」にみる高知の情報化のあり方——

遠山 茂樹

第7章	馬場辰猪、その栄光と挫折 ——異文化体験は彼に何をもたらしたか——	吉門 牧雄
第8章	地域における日本語教育支援 ——高知での今——	山本 恭子・池 純子・折田 正子 西川 淳一・岡嶋 秀子・永吉加代子 畠山 康江・倉内 洋子・橋井 昭六 尾中美代子・今井多衣子・松永 健二 神崎道太郎・奥村 訓代
第9章	文化ホールで逢いましょう!	山下 興作
第Ⅲ部	世界に出てみよう	
第10章	ハワイ日本人移民史と史料発掘	中川 美佐
第11章	日本のイメージ・中国のイメージを中国映画から見てみよう	高橋 俊
第12章	日本語教員養成課程を自動車教習所にたとえると	奥村 訓代
第13章	株価はどのようにして決まるのでしょうか ——最近の日本の株価と同時テロ後の米国航空関連株価——	佐野健太郎
おわりに	——コミュニケーションとはなにか——	丸井 一郎

## 高知大学人文学部「交流する社会・文化」プロジェクト編

『はじめての越境社会文化論——高知へのまなざし・高知からのまなざし——』

リーブル出版、2010年

序章	越境社会文化論への招待	丸井 一郎・吉門 牧雄・岩佐 和幸
第Ⅰ部	歴史・民俗編	
第1章	土佐と西洋	天羽 康夫
第2章	幕末・明治初期高知藩(県)の英学事情 ——英学を重視した教育機関の変遷を踏まえて——	村端 五郎
第3章	ホノルルの高知城	中川 美佐
第4章	幸徳秋水と陶淵明	中森 健二
第5章	義堂周信の「源府君所蔵銅雀研記」をめぐる	周 雲喬
第6章	小説・映画に見る中国の死生観	高橋 俊
第7章	馬場辰猪と加藤弘之 ——天賦人權論をめぐる論争——	吉門 牧雄
第Ⅱ部	現代・地域編	
第8章	越境する労働力、変貌する地域 ——高知県における労働力国際化の現段階——	岩佐 和幸
第9章	地域における外国人住民・中国帰国者との交流及び日本語教育支援 ——高知の場合——	山本 恭子・池 純子・尾中美代子
第10章	「こども劇場」運動のジェンダー的意義 ——高知県と鹿児島県の事例から考察する——	宮崎 香
第11章	高知における情報化の日常生活への影響 ——地域 SNS がもたらす生活領域の“越境”についての考察——	遠山 茂樹

- 第12章 生活の水準・質・密度  
 ——高知で暮らしを考える視座—— 丸井 一郎  
 おわりに

高知大学教育改善推進費(学長裁量経費)プロジェクト「高知における国際化とその影響」  
 『奥村多喜衛説教日記 1894——1897年』全7巻  
 高知大学人文学部国際社会コミュニケーション学科、2011年

岩佐和幸・岩佐光広・森直人編  
 『越境スタディーズ——人文学・社会科学の視点から——』  
 リーブル出版、2015年

- はじめに 岩佐 光広・森 直人
- 第I部 今「越境」を考えるための視座
- 第1章 一つの言語とは何か  
 ——ガーナ、アカン語の例から考える—— 古閑 恭子
- 第2章 「異文化間コミュニケーション」再考 丸井 一郎
- 第3章 「西洋思想」を学ぶ意味  
 ——グローバル化の非対称性の中で—— 森 直人
- 第4章 グローバル・バイオエシックス  
 ——その重要性と課題—— 岩佐 光広
- 第II部 日本への越境／日本からの越境
- 第5章 いわゆる「やさしい日本語」再考 奥村 訓代
- 補論 外国人用防災テキストの作成  
 ——高知の災害(地震・津波)に対する取り組みから—— 公文 素子
- 第6章 日本の大学で、日本人に、中国について教える／学ぶ意味 高橋 俊
- 第7章 外国人住民といかに付き合うか  
 ——在日インドシナ定住難民を事例に—— 岩佐 光広
- 第8章 回転寿司のグローバル化  
 ——職人の消失と地域の衰退—— 岩佐 和幸
- 第III部 高知への越境／高知からの越境
- 第9章 地方大学生における地域コミュニケーションと「クチコミ」  
 ——「クチコミ」解釈の多様性をさぐる—— 遠山 茂樹
- 第10章 「紙」から見える文化史と民芸精神  
 ——吉井源太とウィリアム・モリスの比較試論—— 関 良子
- 第11章 グローバリゼーション下の宝石珊瑚と地域の持続可能性 中西 三紀
- あとがき 天羽 康夫・丸井 一郎・岩佐 和幸
- プロジェクト主要活動一覧(1998～2014年度)